

2018年6月22日
株式会社三菱UFJ銀行

国際協力機構（JICA）が発行する「ソーシャルボンド」への投資について

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 三毛 兼承^{みけ かねつぐ}、以下「当行」）は、このたび独立行政法人国際協力機構（理事長 北岡 伸一^{きたおか しんいち}、以下「JICA」）が発行する「ソーシャルボンド（2018年6月）」へ投資を決定いたしました。

「ソーシャルボンド」とは、調達された資金が社会課題の解決に資する事業に充当される債券です。JICA債は、独立した第三者機関である株式会社日本総合研究所より、国際資本市場協会（International Capital Market Association: ICMA）が定義するソーシャルボンドの特性に従った債券である旨のセカンド・オピニオンを付与されています。

JICA債で調達された資金は、全額がJICAの実施する有償資金協力事業に充てられ、開発途上国の社会課題を解決するための融資に活用されます。主な融資対象は、大規模インフラ整備事業や貧困削減、人材育成を目的としたプロジェクトなどになります。有償資金協力事業の案件には、外部の評価者による事後評価が行われ、評価結果はJICAのウェブサイト上で公開されています。

またJICA債の発行は、2016年12月に策定された日本政府の「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」の具体的な施策の1つになっています。

当行は、引続き責任ある機関投資家としての責務を果たし、持続可能な社会の形成の貢献に努めてまいります。

以上